

環境が与える大学アイスホッケー選手におけるスケーティングスキルの検討 Geographic and environmental factors that affect the development of college ice hockey players

1K10C065-5 羽 脇 銘

指導教員 主査 岡田 純一 先生

副査 松井 泰二 先生

【緒言】

アイスホッケーではパフォーマンスに大きな影響を与える動作は、様々な動作の中でもスケーティングスキルが要因の一つであると考えられる。スケーティングスキルは、陸上よりも不自由な環境にある氷上で移動する為に欠かせない技術であり、方向転換や前方向から後方向への切り換えを素早く行う為には必要不可欠である。エリートホッケー選手にとってスケーティング技術の重要性は高い事が報告されている。また、今在、国内トップリーグの国内選手 95 名のうち 90 名が北海道・青森の練習環境で育ってきている。これは何らかの地域性が関係していると考えられる。日本国内においてアイスホッケーの地域特性に着目した研究はされていない。本研究では、現役大学生アイスホッケー選手を調査対象として、実験・調査を行い、アイスホッケーの地域特性がスケーティングスキルに与える影響を検討する事を目的とした。

【方法】

関東大学リーグデヴィジョン 1 グループ A に所属する都内某 W 大学のアイスホッケー選手 16 名に実験を実施した。関東大学リーグデヴィジョン 1 グループ A に所属する男子大学生アイスホッケーチームの 5 大学、合計 98 名の選手にはアンケート調査を実施した。試合時と同じ格好で 35 メートルのスプリントスケートと S ターンスケーティングを実施した。スタート地点とゴール地点には光電管を用いて測定した。それぞれ 2 回ずつ計測し、タイムの速い方を採用した。アンケート調査は被験者に出生地、小学校、中学校、高校在学時に住んでいた地域、小学校、中学校、高校時のそれぞれのシーズン時の平均練習時間、平均練習頻度、自由記述でスケーティングの練習方法を調査した。小学生時、中学生時には、部活動・クラブの両方に所属していた場合は両方の練習時間・練習頻度を答えてもらった。実験では、中学生まで北海道・青森に在籍していた被験者たちを北地方在籍者、それ以外に在籍していた被験者たちを南地方在籍者に区分し、北と南 2 つの群に区分した。調査したデータから、各カテゴリーにおいて北海道・青森に在籍していた被験者たちを北地方在籍者(N)、それ以外に在籍していた被

験者たちを南地方在籍者(S)に区分した。代表経験者は、18 歳以下の日本代表もしくは 20 歳以下の日本代表を経験している人を代表経験者と区分した。調査したデータから、統計処理の方法として T 検定を用いた。調査したデータから百分率で示した。統計処理は、統計ソフト SPSS を使用し、 χ^2 乗検定を用いて、統計的有意水準を 5%未満とした。

【結果】

実験では 35m スプリントでは有意差が見られなかったが、S ターンスケーティングでは有意差が見られた。

アンケート結果では、練習時間、練習頻度ともに、小学生、中学生、高校生すべてのカテゴリーにおいて有意な差が見られた。また代表経験者の割合にも有意差がみられた。

【考察】

実験結果から、出身地によってスケーティングスキルの差がある事が示唆された。また、代表経験者の割合においても、85%を中学生まで北地方で過ごしていた人達が占めていて、北地方と南地方に有意な差が見られた。北地方在籍者の多くが中学生までに部活動とクラブチームを掛け持ちしていたことが関係していると考えられる。スケーティングスキルには、小学生・中学生時の練習時間、練習頻度が大きく関係していることが示唆された。

【結論】

本研究では、北地方出身者と南地方出身者のスケーティングスキルを検討し、また、そこにどのような練習環境の差が生じていたかを調査した。北地方と南地方では小学生時、中学生時に練習時間・練習頻度に大きな差があり、それがスケーティングスキルに影響することが明らかとなった。

